



プロジェクトニュース

シエラレオネ 地域開発能力向上 (CDCD) プロジェクト

「エボラ復興を担うエンジニア」号

2017年11月28日号 (Vol.51)

第2年次のエボラ復興パイロットプロジェクトでは、北部州の対象3県(右図の水色部分)の県議会職員の努力の甲斐あって、パイロットプロジェクト選定のための一連のステップ(収集データの整理と問題分析、プロジェクト選定基準の設定、年間計画/開発計画の確認、事業コンセプトの確認)が完了し、2017年10月中旬までに、以下のセクターとプロジェクトのコンポーネントが支援対象事業として選定されました。ボンバリ県:①教育(小学校校舎と関連付帯施設の建設)・②教育(中学校校舎と関連付帯施設の建設)、トンコリ県:①教育(小学校校舎と関連付帯施設の建設)・②給水(コミュニティに設置された井戸の改修)、コイナドゥグ県:①農業(穀物貯蔵施設と付帯関連施設の建設)・②保健(母子保健推進員養成学校校舎と付帯関連施設の建設)。これらのプロジェクトの実施により、エボラの発生によって停滞した教育、保健環境が改善され、農業を通じた地域経済の活性化につながることを意図しています。



シエラレオネ全体図
(★はプロジェクト事務所の所在地)

11月6日には、3県同日開催で、各県にて調達委員会が実施され、県議会により調達方法、設計図面、スペック等が了承されました。その後、11月7日にはボンバリ県とコイナドゥグ県、11月9日にはトンコリ県のプロジェクトの建設業者を募集するための公告を新聞等の国内メディアを通じ行いました。

対象セクターとプロジェクトのコンポーネントの骨格が決まると、俄然、忙しくなるのが、各県に所属するエンジニアです。シエラレオネでは、各県議会に1名のエンジニアが配置されています。この国では、西アフリカ最古の大学であるフォーラーベイカレッジが唯一の「エンジニア」の学位(学士)授与機関となっていることから、ほとんどのエンジニアが、この大学の卒業生です。県議会の同僚職員からは、尊敬と親しみをこめて、「エンジー(エンジニア)！」と呼ばれています。一方で、エンジニアは、学校、倉庫、井戸、トイレ、道路、水路等々、県議会が抱えるインフラ整備事業の設計・積算・施工監理業務を一手に引き受け、進捗状況の異なる複数の案件に同時並行で関わっているため、5時に帰る同僚をよそに、夜の10時ごろまで残業することも度々あります。コイナドゥグ県では、当初の期日どおりに公告を行うために、閑散とする金曜日の午後の県議会庁舎で、エンジニアと調達官が発電機を回して入札図書を印刷しました。

第2年次では北部州の3県がプロジェクトの対象県となっていることから3人のエンジニア (Abdul, Konneh, Ishmael) と一緒に業務を行っていますが、皆優秀で、また、時に頑固です。彼らは、皆40歳前後で、設計の経験も十分積んできているため、自信満々で、各自が過去に作成した「使い慣れた」

図面をベースに設計しようとはしますが、今年次では、前年次での経験を踏まえ、出来る限りセクターの希望に沿った設計ができるように、各セクターが作成した「標準図面」の参照プロセスを出来る限り取り入れることにしました。その結果、例えば、エンジニアが最初に作成した小学校の設計では各教室1枚のみであったドアを、生徒の入退出を考慮した最新版の教育省の標準図面に合わせ、各教室2枚（前後に1枚ずつ）にする等、セクターの考えに沿った設計を行うことが出来ました。

県議会のエンジニアという、比較的安定した職業についている彼らも、トンコリリとボンバリのエンジニアは、今年、乳幼児の子供を一人ずつ亡くしています。国としてエボラを乗り越えた後も、引き続き開発支援は必要で、エンジニアに限らず、首席行政官をはじめとする各県議会のスタッフは、日々、大小さまざまな困難に直面しつつも、常に前向きに CDCD プロジェクトを進めようと尽力しています。今後、3 県のパイロットプロジェクトは、施工業者の選定・契約を経て、工事の実施と進んでいきます。各県議会が、エボラからの復興開発のためにも、コミュニティが必要な支援を適切な場所に適切な規模で提供できる、そのような能力向上を目指して、引き続きサポートを行っていきたいと思います。

		
<p>工事数量を計算する Ishmael (コイナドゥグ県議会エンジニア)。</p>	<p>既設ハンドポンプ井戸の作動状況を確認する Abdul (ボンバリ県議会エンジニア)。</p>	<p>3D ソフトで作成した校舎の図面について得意げに説明する Konneh (トンコリリ県エンジニア)。</p>